

二〇一四年四月二五日(参加者二名)

水脈幾そ広げて春の鴨の陣	わかば
ベジダブルガーデン広し蝶遊ぶ	"
若芝に保育乳児のあやふい歩	"
戸を開けて夜遊びの猫呼び入るる	有香
食ひ初めの膳に初生りいちごかな	"
子雀の出入り自由やあひる小屋	"
青空へ五彩の芽吹き甲山	菜々
花の屑神の水面にたゆたひて	"
山つつじ千古の杜を明るうす	"
築山の要の松の色変へず	ひかり
あたたかや焼き立てパンのおすそ分け	"
老幹の低きに芽吹く瑞枝かな	せいじ
白亜なる塔はチャペルや花の山	"
楠若葉洩る目つぶしの日ざしかな	よし子
くつろげるベンチに通ふ落花かな	"
忘れ物ボール花屑まみれかな	よう子
鯉跳ねる水面にふるる柳の芽	"
真新し千本鳥居風光る	満天

春落葉けとばし遊ぶ園児たち	"
春の鴨仲良く尻を振りにけり	宏虎
野菜畑広しあちこち恋の蝶	ぼんこ
碧天へふくるる芽吹き兜山	はく子
春惜しむ由緒書き読む四阿に	"
佇めば春風通ふ親子句碑	"

定例会の選

二〇一四年四月二五日(参加者二名)